

事例7 探究的な学習【縦割りの異学年集団による総合】 地域や学校の特色に応じた探究学習を指導した事例

- 学年 第1・2・3学年
- 探究課題 寄居町の子育てに携わる人たちやその思い
- 主な事例のポイント
 - ①学年・学級の枠を外して学習集団を分担し、縦割りの「一斉総合」を立ち上げる。
 - ②生徒たちが主体となり、集めた情報を整理・分析したことをもとに、町の子育て支援に必要なことを考える。
 - ③自分たちが考え調査し、意見を出しあい改善しながら練り上げた子育てに関する提案を町長に提言する。

ICTを活用した主な学習場面

- ・仲間の考え方を共有する場面
- ・情報収集・整理・分析・発表する場面
- ・校外の事業所との連絡をする場面

ICT活用の利点

- ①収集した情報を用いて、資料やプレゼンテーションを作成する。
- ②Web会議ツール（Microsoft Teams等）を用いて、他校や事業所等と双方向の会議を行うことができる。
- ③オンラインの思考ツールを用いて、仲間と考え方を共有することができる。

1 単元名 子育てNo.1の町を目指して

2 単元の目標

寄居町の町づくりに関する探究活動を通して、地域の特性に気づき、地域の発展について考えるとともに、当事者として地域の活性化に参画する。

3 生徒の実態（省略）

4 教材について

探究課題は「寄居町の子育てに携わる人たちやその思い」である。本単元は、多種多様な人たちが子供を育て、生きていく、より良い町とは何かを中学生の視点から考えていく。

寄居町の世代別人口は、高齢者世代が中心の町になっている。そして、町の人口推移に関しても今後減少に拍車がかかっていることが分かっている。

この現状を知り、町の人口増加に向けてできることを考え調べる中で、高齢者に対する支援やサービスは福祉課や社会福祉協議会を中心に多面的に実施されており、他世代から見ても日常的に見える取組が多い事がわかった。それに対し、いわゆる親世代に対する支援は、当事者には認知されているが、他世代、特に子供にとってはなかなか見えたり、感じたり、実感的には薄い物になっていることがわかった。

そのため、実際の子育て世代の現状や行政の考えを知り、子育て施設の現場の声を拾い、子育て世代の子供である中学生の視点から、町に必要なものを考え、具体的な案にまとめ、それを実現するために方策を考える探究活動を進めていく。

最終的には、この案を町に提案し、生活の場である寄居町の住民の一人として、町の未来を思い描き、積極的にまちづくりに参画するきっかけにする。

この活動自体が、町の行政とタイアップしている側面もあるため、行政等との連携を密に行い、教育委員会の協力を得ながら、生徒のより深い学びへつなげたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の特徴を理解し、地域が発展することの目的や意味を見いだしている。</p> <p>②子育て支援に関して、収集した情報と実体験に基づくよりよい暮らしとを関連付けている。</p> <p>③子育て支援の学習を通して、地域の特性を生かした子育て支援と現在の生活との結び付きに気付いている。</p>	<p>①寄居町の子育て支援について、疑問や興味を持ち、課題を発見し、設定している。</p> <p>②寄居町の子育て支援に関する情報を、目的に応じて選択・収集している。</p> <p>③寄居町の子育て支援について得た情報を整理・分析し、活用している。</p> <p>④寄居町の子育て支援について考えをまとめ、わかりやすく工夫して発表することができる。</p>	<p>①自身の活動を振り返りながら、探究的に取り組もうとしている。</p> <p>②地域住民や行政機関など様々な人々に積極的に関わりながら、課題解決に協働して取り組もうとしている。</p> <p>③お互いの考えを交流する学び合いによって、視野を広げ自己や町の未来につなげようとしている。</p>

6 単元の指導計画と評価計画 (30 時間)

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動(時数) ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
小単元1 寄居ふるさと探究学(以下、探究学)に向けた取組 8時間		
	※一斉総合の立ち上げ	事例のポイント① 実践資料を参照
課題	<p>○オリエンテーションをする(学年毎)(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる町ってあらためて何があるだろう <p>○K J法で探究していく課題を見つける(2)</p> <p>課題① 寄居町について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> K J法で、自分には見えなかった課題が見えてくるのが実感できるよ。 (廊下掲示を見て)先輩(3年生)は、私たちにない考え方をもっているな。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄居町の様子を振り返り、自分の視点で意見を複数出せるよう声掛けをする。 自分の住む地域に足りない施設、理想の住みやすい町について考えることができるようにする。 <p>編 P174 指導計画作成の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラス的生活班で、様々な視点・角度からの意見をお互いに共有できるようにする。 意見のグルーピングや友人の意見から施設の活用に興味をもたせ、活動のゼミ設定、生徒の探究学への取組のきっかけにさせる。 <p>○知・技① 思・判・表①(観察・ノート)</p>
情報	<p>○寄居町の特質や現状を知る(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口の推移はどうなっているかな。 なんで人口の減少が起きているのかな。 寄居町の施設って結構古いものが多いんだ。 <p>ICT活用の利点① 収集した情報を用いて、資料やプレゼンテーションを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町のHPにいろいろな情報があるんだ。 町民の満足度アンケートっていうのを見つけたよ。 <p>ここの過程で希望ゼミアンケートを取り、生徒を4ゼミに振り分ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町の総合政策課に依頼して、町の現状と抱える課題を説明してもらい、探究学での自分の課題発見の足がかりとさせる。 説明を聞き、自分の知らなかった情報を得ることで、町の活性化に必要なことを考えることができるようにする。 自分たちの体験からだけでなく、一人一台のICT端末も活用して、インターネットから情報を収集できるようにする。 様々な情報を収集し視野や思考を広げながら、自分や町の未来について考えることができるようにする。 <p>○態①(観察・ノート)</p>

整理	<p>○集めた情報と、体験したことや聞いたこと、見たことを生かして町の現状を整理する(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年後、町が活性化して、人口が増えるにはどうすればいいだろう。 ・住みやすい環境には、何が必要だろう。 ・今一番困っている世代は、どの世代かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミごとに、寄居町について収集した情報を整理・分析し、活用しながら仮説を立てることができるようにする。 ・専門的な知識を得るために必要なことは何か考えることができるようにする。 <p>○思・判・表③ (ノート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>ICT活用の利点③ オンラインの思考ツールを用いて、仲間と考え方を共有することができる。</p> </div>
表現	<p>○整理した情報を分類し、研究グループをつくる(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いパパママ世代は何に困っているのかな。 ・どこに何があると便利だろう。 ・僕たちができる町づくりって何があるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを使い、情報をグループ化させる。 ・グループ化した情報を基に、ゼミ内の生徒をできるだけ学年を跨いだグループに分ける。 ・研究グループのテーマが決められるように、適切なアドバイスをする。 <p>○知・技② (事前探究レポート)</p>

小単元2 ゼミでの活動で課題探究を実施 15時間

課題	<p>○課題を設定する(2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題② より良く生活するために必要な施設を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで調べることには限界があるから、現場での声を聞きたいな。 <p>○寄居町の子育ての現状をまとめ、より良い子育て支援に必要なものは何かを考える(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の方に意見も聞きたいね。 ・公園でインタビューできないかな。 ・保育施設へ行って取材やアンケートを取りたいね。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>事例のポイント② 実践例1を参照</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・寄居町の町づくりについて、疑問や興味をもち、課題を発見・設定できるように支援する。 <p>○思・判・表① (観察・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村での取組も参考にして、具体性をもった、支援につながるものを考えさせる。 ・以前調べた内容を生かすことができるようにするよう助言する。 ・一人一台端末に搭載されているアプリを活用しながら、取り組むことができるようにする。 <p>○思・判・表②④ (観察・作品)</p>
情報収集	<p>○寄居町の行政や専門家に話を聞き、自分の課題を決める(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある街ってなんだろう。 ・町でパパママを支援できることはないのかな。 ・子育てって大変だけど、実際はどうなの。 ・町は、現状をどれだけ分かっているのかな。 ・幼稚園や保育園で現状を聞きたいね。 ・まだまだ知らないことがたくさんあるね。 ・これを広めることが大切なんだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ICT活用の利点② Web会議ツール (Microsoft Teams 等) を用いて、他校や事業所等と双方向の会議を行うことができる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>編 P174 指導計画作成の留意事項</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に質問を考えておくことで、一方的な講義とならないように配慮する。 ・自分たちで話を聞きに出掛ける際は、いつ、どこに、誰と行くのかなど、外出届を作成することができるようにする。 ・インタビューをすることで、新たな「寄居の魅力」や「地域の人とのつながり」に気付けるようにする。 ・専門家からの話を受け、町全体のニーズに沿って考える場合と、自分事に置き換えて考える場合があることを押さえておく。 <p>○思・判・表②③ (観察・ノート)</p>

情報整理	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援施設的具体案を考える(3) ・実際に運営するとしたら必要なことを考えよう。 ・パパママが、ここに来るメリットってなに。 ・どんな人に働いてもらおうか。 ・どんな場所、広さはどうする。 ・どうやって、地域へ発信しようか。 ・どんなイベントができる。 ・何歳の子供までみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や保育施設のアンケートの情報を基に、何が必要かを考えられるように助言する。 ・実際の情報だけでなく、文献等も参考に情報を比較して活用できるようにする。 ○思・判・表②③ (観察・作品) ・インタビューしてきた内容を整理し、具体案に盛り込む内容を取捨選択できるようにする。 ○態② (観察・作品)
情報分析	<ul style="list-style-type: none"> ○具体案を練り上げ、より提案できる形に仕上げていく(3) ・従業員は何人くらい必要かな。 ・スタッフの役割分担はどうしよう。 ・仕入れは、どうする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の同じような施設を調査させ、運営や活動の状態を調べさせる。
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたこと、作成したものをゼミ内・校内発表会で全校生徒に伝える(2) ・自分たちの思いが伝わったかな。 ○活動を振り返る(1) ・この企画を実現させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したものを見やすく、より伝わりやすくするように、印刷したり、映像で流したりするようにする。 ・自治会や町のPR課に来てもらい、発表を評価してもらう。 ○思・判・表④ (発表)
小単元3 活動のまとめと校外へのPR活動 7時間		事例のポイント③ 実践例2を参照
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を設定する(1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 課題③ 理想の施設を町にPRしよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・町のいろいろな人に共感してもらいたいね。 ・実現するにはハードルが高いけど、知ってもらうことで流れを作りたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが実現しようとしているものを実現させるために、たくさんの人に知ってもらえるように、発信させる。 ・より多くの人に伝えるための手段を考えることができるようにする。 ○知・技② (観察・ノート)
情報整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ここまでまとめた企画を、提案用に見やすくまとめる(2) ・他市町村にある施設と比較したいね。 ・データから他に訴えられる物はないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にして、相手に伝わる企画となるようにする。
分析	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめた企画を行政に提案するための準備をする(2) ・町の広報課に意見を聞きたいね。 ・町の子育て支援課にも見てもらおう。 ・もっと工夫できることはないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画が全て聞いてもらえるわけではないことにも伝え、断られた際には自分の気持ちに折り合いをつけられるようにする。 ・町行政とも連携し、町長と話す機会が得られるのなら、時間を調整する。 ○思・判・表④ (観察・作品)

<p>表現</p>	<p>○町に必要な施設を、作成した資料とスライドでプレゼンする(1)</p> <div data-bbox="359 228 798 349" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ICT活用の利点① 収集した情報を用いて、資料やプレゼンテーションを作成する。</p> </div> <p>○振り返りをする(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この企画で、少しでも行政が動いてくれるとやりがいがあるね。 ・さらに良い施設の企画になるように、来年度への課題を記録しておこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい子育て環境を模索する中から、地域の特性を知り、生かし、いろいろな人と関わる中で、問題を解決しようという意識を高め、次につながる課題を設定することができる。 <p>○態③ 思・判・表④ (発表・ノート)</p>
-----------	---	---

7 実践例

【実践例1】 よりよく生活するために必要な子育て支援施設を考える

(生徒たちが主体となり、自分たちで探究すべきことを明らかにする)

(1) 概要・ねらい

本校は一斉総合を始めて3年目を迎える、全校生徒数が164名(各学年2学級)の小規模校である。全校ガイダンスで一斉総合の意義・理念を共有し、役場職員に寄居町の現状と諸課題を話していただくことを皮切りに、普段生活している地域に課題意識をもって着目し、大テーマ「寄居町の創造(想像)」のもと、当事者意識をもって各自が課題を追究していく。各自の課題をもったうえで、他者と協働し、探究スパイラルを回し、さらに追究していく。各自で気付いた課題、希望ゼミ調査をもとに所属ゼミを決定する。KJ法を実施し、生徒たちの興味・関心を取り入れ、整理し、次の4つのゼミを開設する。

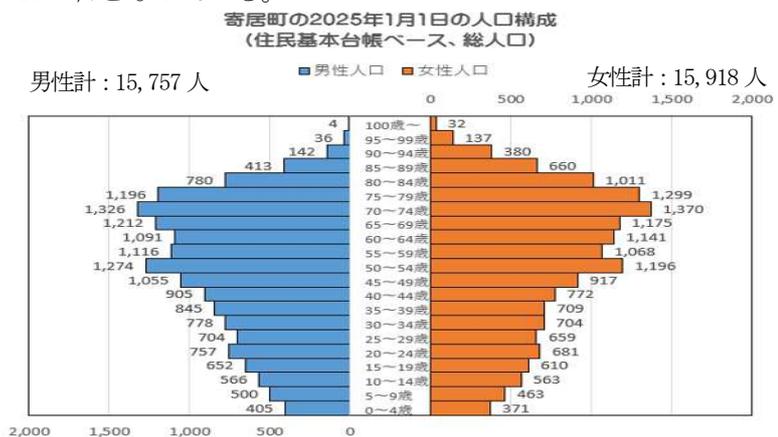
① 自然・環境	② 観光	③ 施設	④ 福祉・ボランティア
---------	------	------	-------------

このなかで、今回の実践事例では、③施設ゼミの子育て支援施設を考えたグループに着目して、活動を追っていく。

ア 町の今ある問題・課題は何か。(生徒の着目したものより)

(7) 少子・高齢化

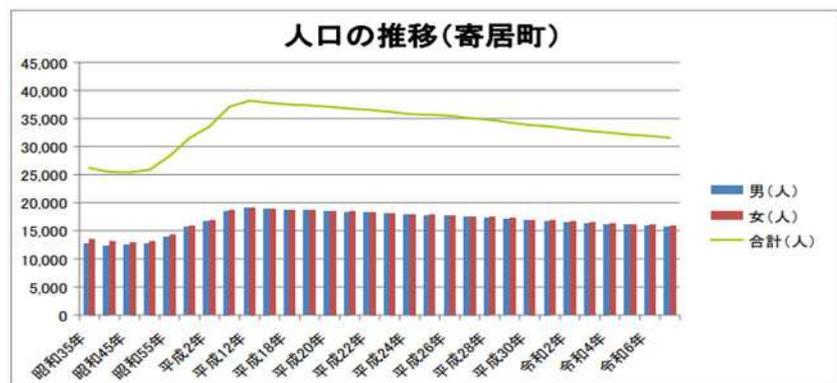
現在、寄居町の65歳以上の人口割合は、33.70%となっており、3人に1人が高齢者となる。また、14歳未満の割合は、10.8%となっている。



(4) 空き家問題

平成30年(2018年)の住宅・土地統計調査によると、寄居町の空き家率は18.3%で、全国平均(13.6%)を上回り、埼玉県内では高い水準となっている。

(7) 人口推移



このデータから、人口減少は継続していくことがわかった。

☆以上のことを改善していくために必要な施設は何かを考えた。

イ 町の活性化に必要な施設を考える

・介護施設 ・空き家を再利用した施設 ・安全に住みやすいと思える施設 等、考える中で、『育児サポートの施設（保育園・幼稚園等ではない別のもの）』を考えることになった。

ウ 生徒から出てきた疑問（課題）

- (ア) 町の少子化の現状がどうなっているのか。
- (イ) そうなってしまった原因は何か。
- (ウ) 子供を実際に育てている人が求めているものは何か。

エ 疑問への対応

(ア) ウー(ア)、(イ)に関しては町政関係者から話を聞いて、まとめた。

a 少子化の影響

寄居町の 年少人口（0～14 歳）割合は約 10%前後 と低く、全国平均（約 12～13%）よりも低い水準にある。これは、出生率の低下により、新たに町内で増える人口が少なく、自然減（死亡者数が出生者数を上回る）が進んでいるからだと考えられる。また、高齢化率が約 33% と高く、人口構成の偏りが顕著になっている。

b 若年層の流出

寄居町は埼玉県北部に位置する地方都市・郊外地域である。そのため、県内の大都市（さいたま市、川越市、熊谷市など）への就学・就職機会を求める若者の流出が続いている。また、高校卒業後や大学進学後に都市部へ移住するケースが多く、20～30 代の人口減少が進み、地域の労働力人口も減少している。

c 高齢化の進行

高齢化率 33%超は、県内でも高い水準であり、高齢者の死亡による人口減少が進む一方、町内での出生者数が少ないため、自然減が加速している。そのため、介護や医療の負担増により、定住意欲や地域活動の活力も相対的に低下している。

d 住宅・生活利便性の課題

若年世代・子育て世代が定住しにくい要因として、交通・商業施設・娯楽施設の不足や、都市部と比べた雇用機会の少なさがある。また、空き家率の高さ（18%前後）も表面的には住宅余剰を示すが、生活利便性や建物の老朽化により、若年層に選ばれにくい状況である。

e 地域間格差・経済要因

農業や地場産業中心の地域経済は安定している部分もあるが、都市部に比べて所得水準や雇用の多様性が限定される傾向が見られる。

結果として、働き盛りの世代が都市圏へ流出する構造が固定化している。

☆調査よりわかったこと

町の人口減少・・・ 少子化+若年層流出+高齢化 と考えられる

対策・・・・・・・・・・ 子育て世代の定住促進
地域産業の活性化
空き家活用や交通利便性の改善

(イ) ウに関しては、近隣の保育所に協力を仰ぎ、アンケートをとる。⇒Microsoft Formsにて

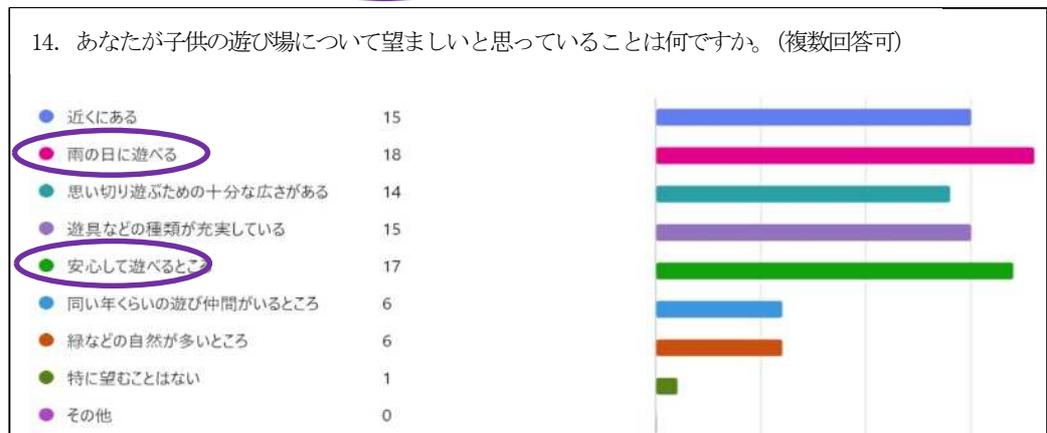
＜子育て支援に関するアンケート調査 質問項目＞

1. お子さんは何番目のお子さんですか。
2. お子さんの性別をご記入ください。
3. その教育・保育事業を選ぶときに重視したことはどのようなことですか。
4. あなた(回答者)の年齢をご記入ください。
5. 回答者と対象のお子さんとの関係をお答えください。
6. お住まいの小学校区はどこですか。
7. 寄居町に住んで何年になりますか。
8. 理想とする子どもの数と実際にいる(予定している)子どもの数は何人ですか。
9. 現在のあなた(回答者)の就労状況(自営業、家族従事者含む)。
10. 子育ては主にどなたがなさっていますか。
11. 母親はあて名のお子さんの出産前後(前後それぞれ1年以内)に離職をしましたか。
12. あなたは子育てを楽しんでいると感じていますか。
13. 子育てをしていて良かったことや喜びを感じたことはありますか。
14. あなたが子どもの遊び場について望ましいと思うことは何ですか。
15. お子さんとの外出の際困ることや今までに困ったことは何ですか。
16. 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何ですか。

※アンケート回答抜粋

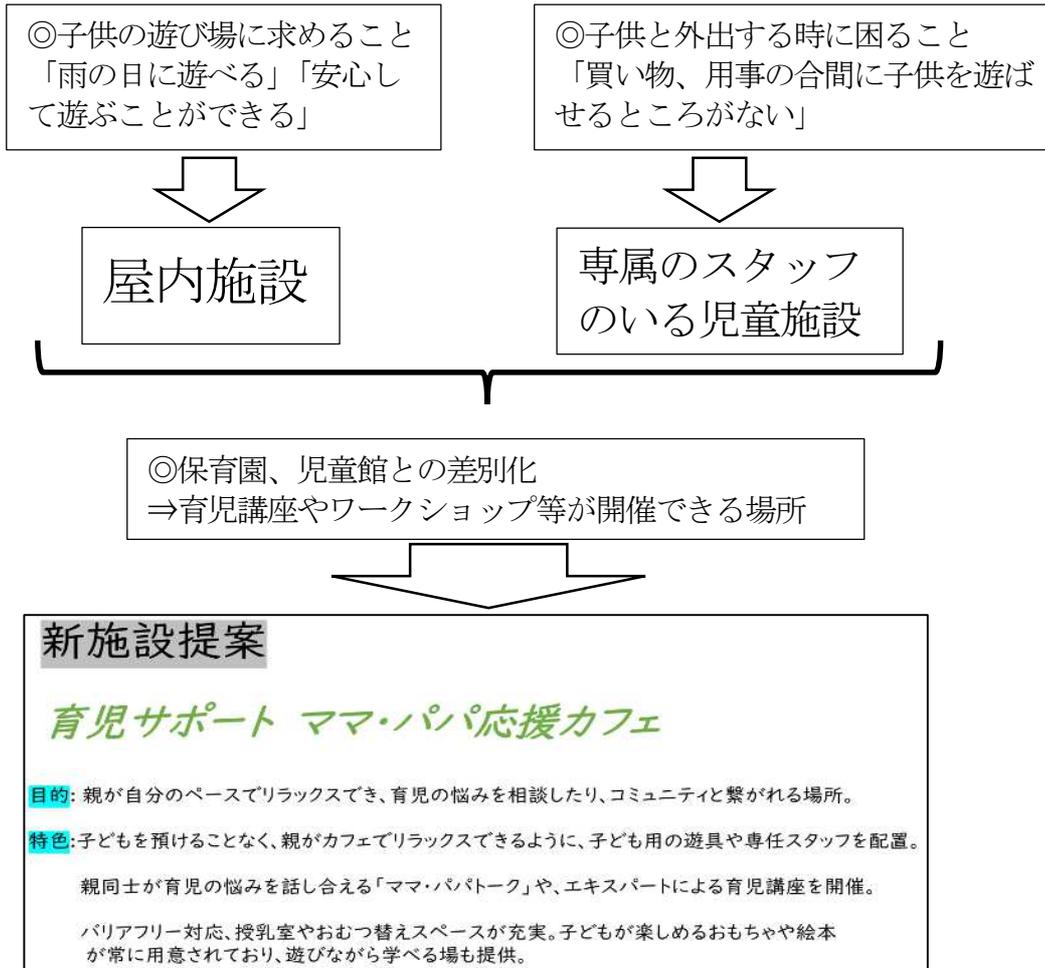


で困った回答に着目した



オ 調査及び、アンケートからの起案

<アンケート結果>



カ 具体案を練り上げ、より提案できる形に仕上げていく

(ア) 目的と効果

- a 保護者の交流
 - ・孤独感の解消
 - ・育児仲間を見つけられる
- b 学びの機会
 - ・育児に関するワークショップやセミナーの開催
- c 情報共有
 - ・育児に関する悩みや情報の共有
- d リフレッシュ
 - ・日常からの離脱

(イ) カフェの運営体制

- a 運営チーム・・・ボランティアスタッフも含めたスタッフチームを編成
- b 専門家との連携・・・保育士、心理士など、専門家との連携

(ウ) カフェの活動内容

- a リラックスタイム・・・パパママに、コーヒーやお茶、軽食を提供
- b 遊びの時間・・・子供に、おもちゃや絵本、遊具を用意
- c 学びの時間・・・育児に関するワークショップやセミナー

(エ) 立ち上げに向けての課題

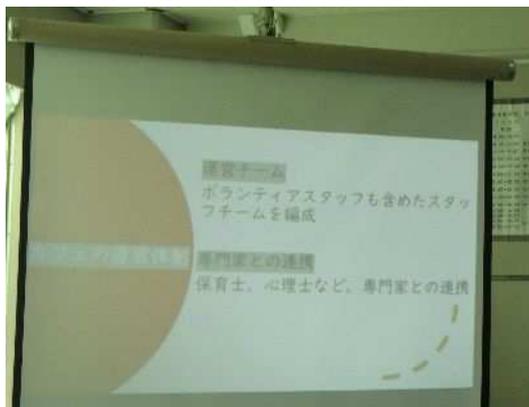
- a 運営費用や設備導入の資金調達
- b 運営スタッフやボランティアの人材確保

- (オ) 地域へのアプローチと広報戦略
 - a 地域団体との連携
 - b 地域情報誌やWEB サイトへの掲載
 - c SNS を活用した情報発信
 - d チラシ配布やポスター掲示

キ 発表の流れ

上記のことをMicrosoft PowerPoint でまとめ、ゼミ内発表後、校内発表を実施した。

(ア) ゼミ内発表会の様子



ゼミごとに振り分けられた教室に集まり、ゼミ内発表を行い（1グループ5分程度）、ゼミ代表のグループを決定した。選考は、発表後、生徒に各グループの評価をしてもらい、それを参考に教員で最終決定を行った。
また、後日、生徒の評価を集約し、各グループへのフィードバックも実施した。



(イ) 校内発表会の様子

- ・各ゼミ代表4グループによる、体育館での全校生徒へ向けての校内発表会を行った。
- ・各グループが、ゼミ発表の反省を活かし、スライドに修正を加え、発表を行った。
- ・発表後、全生徒にアンケートで学校代表選考投票と、発表に対するコメントをもらった。
- ・学校代表グループは、選考基準を生徒投票と教員の意見を参考に最終決定した。



ク 実践例で見られた生徒の姿と課題

- ・グループができた当初は、幼稚園や保育園に行き子供と遊ぶくらいの意識だったが、町の現状を調べるうちに、意識の変容がみられた。
- ・最初は、何をやったらいいか迷っていた1年生も、先輩の動きや指示を受けの中で、自分の意見を出したり、積極的に活動に取り組んだりする様子が見られた。
- ・子育てに関するアンケートを取るために、幼稚園や保育園で園児のお迎えの保護者に直接アンケート渡すことを考えたが、園側が対応仕切れない場合があることに気付いた。
- ・アンケートを生徒の母園でお願いしようと考えていたが、園の方針や園長の考えに配慮しなければならないことに気付いた。
- ・アンケートを承諾してくれる保育園に持っていったところ、内容が園児に分かりにくいと意見があったため、分かりやすい表現に直して対応した。

【実践例2】理想の子育て支援施設を町にPRする（企画実現に向けて町長へ提言を行う）

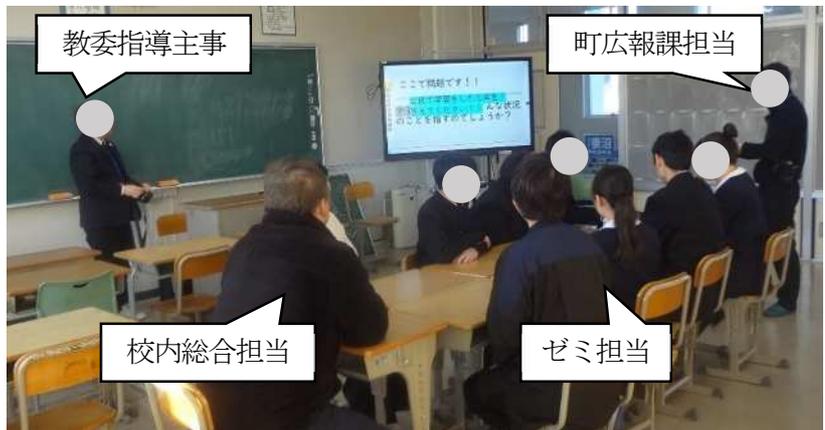
(1) 発表資料をブラッシュアップする

校外（保育所、商工会、町役場等）への提案になるため、プレゼン資料をより分かりやすく、見やすくする必要が出てきた。そのため、校内ゼミ担当とのミーティングでは限界があったので、さらに良いものにするため、町教委に相談を依頼した。その相談で、実際のプレゼンを見ての会議を行うこととなった。

(2) まとめた企画を行政に提案するための打ち合わせ

町教委、広報課ともつながり、学校に来ていただき打ち合わせを行った。

そのなかで、行政に提出するために必要なポイントや行政側からの視点や実現可能かどうかの視点など、校内では得られない視点からのアドバイスをいただくことができた。



(3) 資料の改善

打ち合わせを受けて、プレゼンの内容を修正したり、ホールでの発表のため、字の大きさを調整したりすることで、発表に向けての改善を行った。

<改善前>

調査から分かったこと

寄居町の合計特殊出生率は1.08→少子化の大幅な進行がみられる

若者世代の人口流出とその原因→①自然減
②進学、就職に伴い転出する若い世代が増加。

運営チーム
ボランティアスタッフも含めたスタッフチームを編成

カフェの運営体制
専門家との連携
保育士、心理士など、専門家との連携

↓

<改善後>

調査から分かったこと

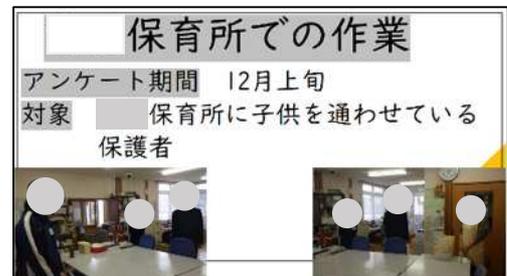
寄居町の合計特殊出生率は1.08
→少子化の大幅な進行がみられる

若者世代の人口流出とその原因
→①自然減
②進学、就職に伴い転出する若い世代が増加。

運営チーム
ボランティアスタッフも含めたスタッフチームを編成

カフェの運営体制
専門家との連携
保育士、心理士など、専門家との連携

・より企画に具体性を持たせるために加筆、画像追加



打ち合わせの結果、実際にお願ひしたアンケート書面もスライドに載せることに決まった。

(4) 町に必要な施設を、作成した資料とスライドでプレゼンする

町の中央公民館のホールに町の3つの中学校から代表3グループが集まり、町長含む町行政へ提言を行った。

<発表場面>



<発表後、町長からの指導・講評>



(5) 生徒の振り返りから

ア 活動の中で大変だったこと

質問を考えること、レポートをまとめることが大変だった

タブレットで少子高齢化のことなどを調べて文にまとめたこと

アンケートをつくり、そのアンケートの答えをまとめたものを、
パワポにまとめたこと。

イ 活動を通して自分に身についた力

積極的に活動に参加する力

協力する力が自分の身についた。

人とのコミュニケーションとその目的のために学年関係なく協力し、
最後までやりとげられる力。

ウ 町長提言で思ったこと、感じたこと

最初にはさんぽしたけれど、前に立って発表しているときは
ここにこれよかったなと思った

少子化についての対策が業が言えてよかった

(6) 実践のまとめ

最初は幼稚園や保育園に行き子供達と触れ合いたいという意識があったこのグループだが、情報を集め、まとめているうちに、町の現状を知り、自分たちの町という参画意識が高めていった。そして、目標が明確になることで、研究に向けたモチベーションも高まり、それに比例してより具体的な企画や方策を考えていくことにつながった。最終的に、研究したことを町への提案につなげていくことができた。

今後は、この流れを、これからの研究をすすめる他の生徒の指針のひとつにし、より活発な研究につなげていく。

(7) 補足

①研究結果の発表とそこまでの流れが、町の広報に掲載されました。

<https://www.town.yorii.saitama.jp/site/kouhou-yorii/kouhouyorii2025-3.html>



【実践資料】学年・学級の枠を外して学習集団を分担し、縦割りによる「一斉総合」の立ち上げ方

1 年間計画

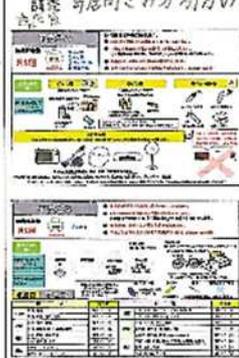
縦割りによる一斉総合の流れ		
	生徒	教員
4月	昨年度成果物から課題を共有する。	職員会議にて一斉総合の理念の共有を図る。
5月	全校朝会で一斉総合の課題について考える。	*総合カレンダーを作成しゼミのスケジュール感を考える。
	総合ガイダンスで考えを深める。 KJ法でゼミを設定する。	総合ガイダンスを実施し寄居ふるさと探究学について方向性を見いださせる。
6月	総合政策課からの寄居町の現状・諸課題の講話を聴き、課題について再考する。	
7月	自分の考える課題から*希望ゼミ調査に回答する。	希望ゼミ調査から4つのゼミへ生徒を所属させる。
	ゼミ顔合わせで情報を共有し、現地踏査について考える。	大テーマを受け、単元テーマ設定の補助をする。
8月	現地踏査を行う。現課題を*レポートにまとめ、グループ探究に生かす。	昨年度の成果物から今年度につながる材料を吟味する。
9月	グループごとに探究課題を決定する。 探究ツアーや講話依頼など*グループの単元計画を作成する。	課題ごとに縦割りグループを組ませ、補助する。グループの単元計画の作成の補助をする。
10月～	縦割りグループでの課題追究・ゼミ内発表・校内発表	
12月	町全体発表（町長への提言）	
1月	練り上げ	
2月	最終報告（掲示、データ）	
3月	次年度への引継ぎ	

※夏休みの事前探究レポート

別紙 【一斉総合】事前レポート (A3)

2学期から本格的に総合的な学習の時間に、当届ふるさと探究学「一斉総合ゼミ」が始まります。自分たちが暮らす寄居町の現状に興味・関心・疑問を持ち、自分たちの課題設定をしましょう。まずは、(1)興味・関心・疑問を持ちます。(2)調査(現地調査)をします。(3)課題を設定します。(4)顔合わせ

① 関心・疑問 寄居町のごみの分別と出し方について (不燃ごみ)

② 調査 寄居町ごみ分別方のパンフレットで調べた。


- ごみと分別されているのか?
- 透明袋で出されているのか?
- 収集車を持って出しているのか?
- 不燃ごみ、燃やさないごみ(燃やさないごみ)が混ざっているのか?
- 家の人が関わっているのか?

③ 課題設定 分別の現状と対策方法

設定理由 母が年に1回地区の不燃ごみ当番があり、分別されていないもの袋が透明でなかったりと大変だと話していたから。

別紙 【一斉総合】事前レポート (A3)

2学期から本格的に総合的な学習の時間に、当届ふるさと探究学「一斉総合ゼミ」が始まります。自分たちが暮らす寄居町の現状に興味・関心・疑問を持ち、自分たちの課題設定をしましょう。まずは、(1)興味・関心・疑問を持ちます。(2)調査(現地調査)をします。(3)課題を設定します。(4)顔合わせ

① 関心・疑問 寄居町の現状について、どのような課題があるのか

② 調査 老人のボランティア活動があるのか調べてみる。(地域の課題)

高齢者・障がい者施設
介護補助・生活支援・清掃・管有業・運動会参加
利用者とのコミュニケーション、関係あり、交流・お祭り等
[調査・保育施設]
清掃・子どもたちと遊ぶ・問題を発見・運動補助
乳がんの保育補助・保育士の保護
[施設見学など]
図書館・点字・車いす体験・盲導犬・福祉体験
-れいごふで運営補助-るとも倉庫
福祉サービスの提供
[感想] 友達や他の学校の人と一緒に活動したり、ハードワークもしたり、高齢者のボランティアをするときに、自分たちの力を発揮して、地域に貢献したい。また、私の活動が、地域の発展に少しでも貢献できたらいい。同じ学校の友達もいて良かった。

③ 課題設定 ボランティア参加できる人数を増やす

設定理由 自分や友達もボランティアに参加したいけれど、人数に空きがなく、しかもボランティアに行くことができなかった。ボランティアに参加できる人数を増やせば、積極的に参加する人も増えると思えたから。

2 寄居ふるさと探究学（一斉総合）の理念

(1) 本物の学び

プロ（専門家）と関わる学びを全ゼミ（グループ）で設定し実施。キャリア教育につながる。実社会とのつながりが重要。また、協働することで新たな学びにつながる。AさんとBさん2人なら、A、B、ABという3つの考え、Aさん、Bさん、Cさんの3人ならA、B、C、AB、BC、CAという6つの考えが生まれる。1年生のつぶやきが、3年生の思考を深める。相乗効果が期待できる。

(2) 振り返りで価値付け

総合ノートに自分の学びを蓄積し、毎時間「振り返り」の記入。生徒の「振り返り」に教師がコメントを記入することで意欲と更なる学びを引き出す。

(3) 計画力と調整力

「寄居町ふるさと探究学」のゼミ・グループ単元計画を確認、修正・・・夏季休業中作成すること。

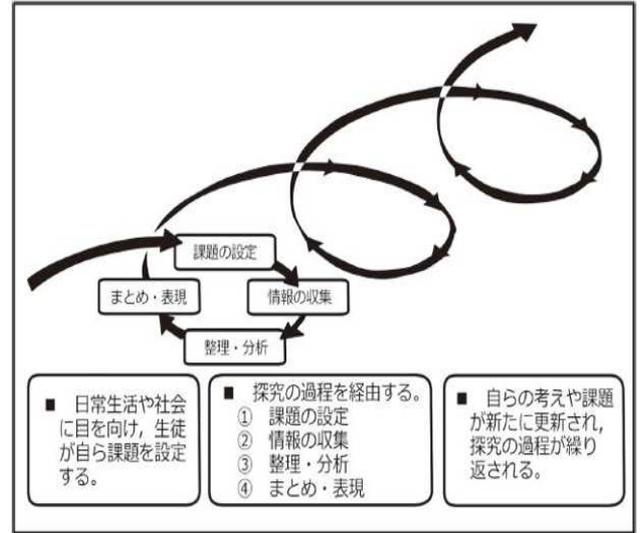
見本をもとに、ゼミ担当で確認して調整すること。学習に計画は必須である。

(4) 探究スパイラル

『「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現』の過程を2周以上回すことを目標とする。

総合において、私たち教師の役割は、生徒の発想を大切に、一緒に学びながら広げてあげること。生徒の学びに必要な、「人・もの・こと」へつなげる。私たち教師自身が、発想の転換が必要である。

探究的な学習における生徒の学習の姿



※ 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 参照

3 総合カレンダー（実際の動き）

総合カレンダー（7月）				総合カレンダー（9月）				総合カレンダー（10月）				総合カレンダー（11月）				総合カレンダー（12月）			
日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月
1	水			1	日			1	日			1	日			1	日		
2	木	期末テスト		2	月			2	月	学習探究（地域）	学年総会	2	月			2	月		
3	金	期末テスト	学年総会	3	火			3	火	学習探究（地域）	学年総会	3	火			3	火		
4	土			4	水	一斉総会	学年総会	4	水	一斉総会	学年総会	4	水			4	水	校内発表会	一斉総会
5	日			5	木	一斉総会	学年総会	5	木			5	木			5	木		
6	月			6	金			6	金			6	金			6	金		
7	火			7	土			7	土			7	土			7	土		
8	水			8	日			8	日			8	日			8	日		
9	木			9	月			9	月	本校テスト3科	学年総会	9	月			9	月		
10	金			10	火			10	火	本校テスト3科	学年総会	10	火			10	火		
11	土			11	水			11	水			11	水			11	水	学年総会	発表会決定
12	日			12	木			12	木			12	木			12	木		
13	月			13	金			13	金			13	金			13	金		
14	火			14	土			14	土			14	土			14	土		
15	水			15	日			15	日			15	日			15	日		
16	木			16	月			16	月			16	月			16	月		
17	金			17	火			17	火			17	火			17	火		
18	土			18	水			18	水			18	水			18	水		
19	日			19	木			19	木			19	木			19	木		
20	月			20	金			20	金			20	金			20	金		
21	火			21	土			21	土			21	土			21	土		
22	水			22	日			22	日			22	日			22	日		
23	木			23	月			23	月			23	月			23	月		
24	金			24	火			24	火			24	火			24	火		
25	土			25	水			25	水			25	水			25	水		
26	日			26	木			26	木			26	木			26	木		
27	月			27	金			27	金			27	金			27	金		
28	火			28	土			28	土			28	土			28	土		
29	水			29	日			29	日			29	日			29	日		
30	木			30	月			30	月			30	月			30	月		
31	金			31	火			31	火			31	火			31	火		

